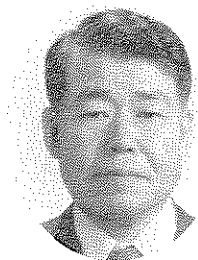


PREFACE

会長就任にあたって

清 山 哲 郎



この度、はからずも日本表面科学会の会長の役につくことになりました。本会は設立以来3年を経過した所であります。その間初代会長の上田隆三先生をはじめ役員の方々の御尽力により、学会としての基盤がきづかれました。これを草創期として、これからを発展期たらしめることが私ども新役員に課せられた任務であると存じます。微力ではありますが精一杯努力するつもりであります。宜しく御支援賜わるようお願いします。

さて、表面科学は学際性という点ではその最たるものでしょう。皆様は各自専門をおもちで、その方の学会で活動しつつ、且つ表面科学にも強いかわりがあり本会員でもあると考えられます。私自身も専門は応用化学ですが、若い頃は機能性の高分子膜の研究、薄膜や表面の電子線回折等を通じて、今は触媒研究で XPS や SIMS 等を武器にすることにより表面とかかわってきました。Surface Science の名を冠する国際ジャーナルは1964年の創刊であり、古い歴史をもつ伝統的諸科学に比べると、ずっと後であることもその学際性の故でしょう。しかしこのジャーナルも1982年には、年11巻ページ数にして6816ページにまで膨張しています。これからも判りますように表面科学の発展は目覚ましいものがあります。事実、種々の表面分光学の出現等によって可能となった表面の分子科学的な究明が、表面科学の発展を加速するとともに関連する諸科学、技術の発展に大きな寄与をなしつつあること皆様御存知の通りであります。現代は学際領域が重要であると言われていますが表面科学も正に然りであると言えます。本会を共通の場として各分野の方々が活動されることを期待したいものです。

本会としては会誌をなるべく早くバイマンスリーにするよう努力すること、又一方シンポジウム等の研究発表と交流の場を定着させること、さらには、好評を得ておりますセミナー等の魅力的な企画をつづけることにしております。重ねて皆様の御協力をお願いして、私の御挨拶とします。

(九州大学大学院総合理工学研究科)